

モンタナ州：小麦作柄と気象状況

2004年10月5日

2004年10月3日現在

10月3日に終わる1週間の州平均農作業稼働日数は6.4日であった。最高気温は70度台から80度の前半であり、平年より多少気温は低目であった。降水は極めて限られた地区に見られた。春小麦の収穫は進んだが、Durum小麦は全体の79%が完熟期にあり、収穫完了圃場は全体の68%（作年：100%）のみであった。HRS小麦の収穫は95%（作年：100%、5年平均：97%）にて完了した。2005年産冬小麦の播種は順調に進捗し、全体の86%（作年：73%、5年平均：66%）の圃場にて完了した。土壌水分が良好であり出芽も順調に進み、播種圃場の43%にて出芽した。昨年同期では8%の出芽であった、

土壌水分：10月3日現在

Topsoil

	This week	Last week	Last year	5-yr. Ave.
Very short (%)	20	18	50	34
Short (%)	36	38	36	39
Adequate (%)	41	39	13	26
Surplus (%)	3	5	1	1

Subsoil

Very short (%)	40	36	65	46
Short (%)	34	43	30	37
Adequate (%)	25	21	5	17
Surplus (%)	1	0	0	0

小麦生育状況：10月3日現在

<i>Winter wheat</i>	This Week	Last Week	Last Year	5-year Ave.
Planted (%)	86	66	73	66
Emerged (%)	43	14	8	23
<i>HRS wheat</i>				
Harvested (%)	95	88	100	97

Source: Montana Agricultural statistics Service

2004年10月1日付け農務省発表冬小麦の生産予想：

Crop year	Area Harvested 1,000 acres		Yield Bushels/acre			Production 1,000 bushels	
	2003	2004	2003	2004		2003	2004
				July 1	Oct 1		
Winter W.	1,720	1,550	37.0	38.0	41.0	53,070	66,830
Spring W.	2,700	2,700	22.0	27.0	31.0	59,400	89,900

モンタナ州の2004年産冬小麦は、Mild winterの後、春先より適時降雨に恵まれ、栄養成長が順調に進み、その後生殖成長に入ってから急激な温度上昇等

に遭遇せず、理想的な生育をした。登熟期に入った 6 月の気象は平年より低目の気温にて推移し、適時に降雨があった。冬小麦並びに春小麦にとって有効であった。春小麦は播種期の天候が不順であり、播種が遅れその後の低目の気温の為、栄養成長が遅れ結果として生殖成長が例年より 1~2 週間遅れていた。但し、登熟期を迎え急激な温度上昇等を受けず、澱粉蓄積には適した状態であった。

冬小麦の予想単位収量；41 ブッシェル/エーカーは過去最高の数値である。過去の最高収量は、1995 年産及び 1991 年産冬小麦の 40.0 ブッシェルであった。春小麦の予想単位収量は 31 ブッシェルと発表された。この数値は 1995 年の 35 ブッシェルに続く高単位収量である。

当該作柄と気象報告に関するご質問は下記にお願い致します。

小川正晃：<mailto:ogawa.max@omicnet.com>